

ジグノシステムジャパン 第10期本決算説明会



IJ 00956 IS 84139
ISMS Certification Criteria(Ver.2.0) BS7799:PART2:200

2006年5月16日
ヘラクレス(4300)

免責事項

本説明会および参考資料の内容には、将来に対する見通しが含まれている場合があります。これらの実現については、弊社が継続して事業を展開する上で不可避の潜在的リスクである、経済状況、新サービスの成否、他社との競争状況などの不確実性を含んでおりますので、これら見通しと大きく異なる結果となり得ることをご了承下さい。

本説明会、および参考資料において使用される商標は、関係各社の商標、または登録商標です。

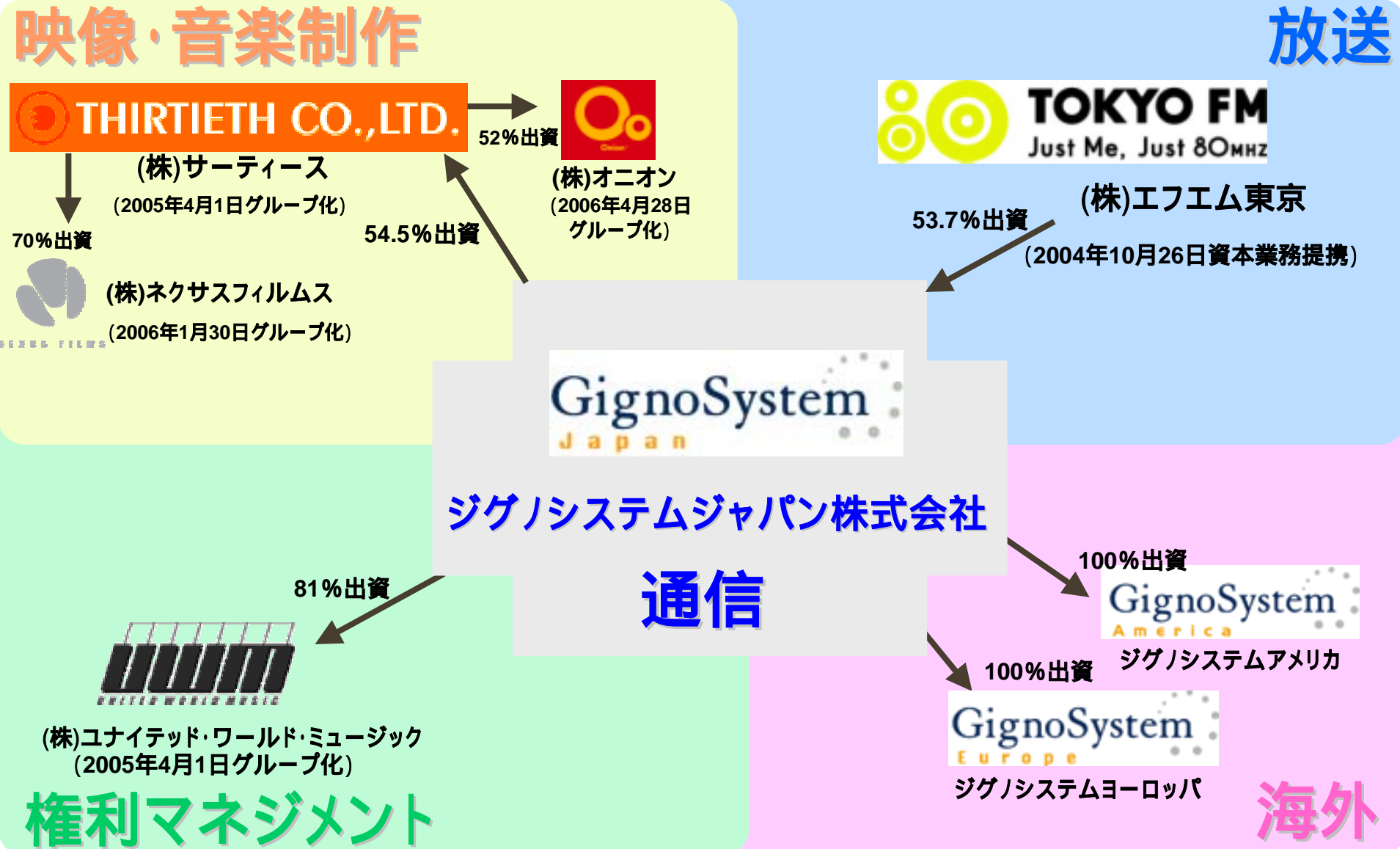
目次

1. 会社概要
2. 第10期 決算概況
 - 連結財務諸表(損益計算書、貸借対照表)
 - 各グループ会社単体損益計算書
 - キャッシュフロー計算書(連結)
 - 単体財務諸表(損益計算書、貸借対照表)
 - オニオン社の子会社化について
 - 配当について
3. セグメント別営業概況
 - 事業別売上高・営業損益
 - インフォメーションプロバイダー事業(国内)
 - ソリューション事業
 - コマース事業
 - グループ会社について
 - (株)サーティース(映像・音楽制作事業)
 - (株)ユナイテッド・ワールド・ミュージック(UWM)
 - 海外子会社(ジグノシステムアメリカ、ジグノシステムヨーロッパ)
4. 今後の成長戦略
5. 今期業績予想

1.会社概要

会社名	ジグノシステムジャパン株式会社		
設立	1996年12月		
資本金	3,342,995,472円 (2006年3月末日現在)		
所在地	東京都千代田区麹町1丁目12番地 (2005年10月1日左記住所に移転)		
代表者	飯田桂子		
事業内容	インフォメーションプロバイダー事業(国内・海外) ソリューション事業 コマース事業 映像・音楽制作事業		
子会社	株式会社サーティース (株式会社サーティース子会社: 株式会社ネクサスフィルムス 株式会社オニオン) 株式会社ユナイテッド・ワールド・ミュージック(UWM) ジグノシステムアメリカ(GEA) ジグノシステムヨーロッパ(GSE)		
人数	(単体)101名(役員・社員・契約社員・派遣社員) (連結)141名(役員・社員・契約社員・派遣社員) (2006年3月末日現在)		

1.会社概要 <グループ図>



2.決算概要 <連結損益計算書>

	第9期(05.3期)		第10期(06.3期)		前年 同期比	(百万円)
	通期	構成比	通期	構成比		
売上高	4,255	100%	5,041	100%	118%	グループ及び事業拡大による増収
売上総利益	1,732	41%	1,706	34%	98%	
販売費及び一般管理費	1,167	27%	1,666	33%	142%	グループ拡大による人員増加等でのコスト増
営業利益	564	13%	39	1%	7%	海外子会社の損失、国内新規事業による投資等
経常利益	515	12%	17	0%	3%	
特別利益	740	17%	360	7%	49%	保有有価証券の売却益等
特別損失	30	1%	102	2%	339%	退職役員に対する慰労金 本社移転費用
当期純利益	700	16%	82	2%	12%	

2.決算概要 <各グループ会社単体損益計算書>

第10期(06.03期)通期

(百万円)

	ジグノ単体 構成比		サーティース 構成比		UWM 構成比		GSA 構成比		GSE 構成比	
売上高	3,987	100%	883	100%	92	100%	77	100%	42	100%
売上総利益	1,477	37%	165	19%	9	10%	38	49%	10	25%
販売費及び 一般管理費	1,238	31%	162	18%	34	37%	88	114%	75	176%
営業利益	238	6%	2	-	25	-	50	-	64	-
経常利益	228	6%	5	-	30	-	50	-	64	-
特別利益	360	9%	0	-	0	-	0	-	0	-
特別損失	79	2%	0	-	0	-	22	29%	0	-
当期純利益	312	8%	2	-	30	-	73	-	64	-

2.決算概要 <連結貸借対照表>

主な科目	第9期末(05.3期)	第10期末(06.3期)	増減	(百万円)
< 資産の部 >				
流動資産	9,145	7,789	1,356	次ページ参照
現金・預金	7,895	5,968	1,927	
受取手形及び売掛金	1,091	1,440	349	
その他	159	381	222	
固定資産	974	2,042	1,068	連結調整勘定 子会社株式の取得 定期預金への振替等
有形資産	114	264	150	
無形資産	68	569	501	
投資その他	791	1,207	416	
資産合計	10,120	9,832	288	
< 負債の部 >				
流動負債	1,124	1,028	96	未払法人税の減少等
買掛金	558	691	133	
その他	566	337	229	
固定負債	130	68	62	保有有価証券売却により消去
繰延税金負債	130	0	130	
その他		68	68	
負債合計	1,255	1,096	159	
< 少数株主持分の部 >				
少数株主持分	-	144	144	
< 資本の部 >				
資本金	3,335	3,343	8	保有有価証券売却により消去
資本剰余金	3,262	3,270	8	
利益剰余金	2,043	1,966	77	
その他	223	12	211	
資本合計	8,865	8,591	274	
負債・少数株主持分・資本合計	10,120	9,832	288	

2.決算概要 <キャッシュフロー計算書>

主な項目	第9期(05.3期)	第10期(06.3期)	増減	(百万円)
営業活動によるキャッシュフロー	308	732	1,040	
税金等調整前当期純利益	1,226	275	951	
減価償却費	87	119	32	
投資有価証券売却益	740	360	380	← 保有有価証券の売却
売上債権の増減(増加:)	204	78	282	← サーティース連結化に伴う増加
仕入債務の増減(減少:)	93	16	77	
その他	9	77	86	
法人税等の支払	385	595	210	← 法人税の支払い
投資活動によるキャッシュフロー	611	637	1,248	
定期預金への預け入れ	-	500	500	
投資有価証券の取得・売却	659	298	361	← ファンドへの出資
子会社株式の取得	-	216	216	← サーティース等の株式取得
その他	48	219	171	
財務活動によるキャッシュフロー	4,287	561	4,848	
株式発行による収入	4,388	10	4,378	
配当金の支払	100	139	39	
借入金の返済による支出	-	417	417	← 子会社による借入金返済
その他	-	14	14	
現金及び現金同等物の増減額	5,209	1,926	7,135	
現金及び現金同等物の期首残	1,885	7,095	5,210	
現金及び現金同等物の期末残	7,095	5,168	1,927	

2.決算概要 <単体損益計算書>

	第9期(05.3期) 通期		第10期(06.3期) 通期		前年 同期比	(百万円)
		構成比		構成比		
売上高	4,198	100%	3,987	100%	95%	← IP事業の売上減少
売上総利益	1,702	41%	1,477	37%	87%	← 新規事業への先行投資による 利益率の低下
販売費及び 一般管理費	1,057	25%	1,238	31%	117%	← 新卒採用、人員増強に伴う 人件費の増加等
営業利益	645	15%	238	6%	37%	
経常利益	617	15%	228	6%	37%	
特別利益	708	17%	360	9%	51%	← 保有有価証券の売却益
特別損失	50	1%	79	2%	158%	← 退職役員に対する慰労金 本社移転費用
当期純利益	750	18%	312	8%	42%	

2.決算概要 <単体貸借対照表>

主な科目	第9期(05.3期)	第10期(06.3期)	増減	(百万円)
< 資産の部 >				
流動資産	8,962	7,375	1,587	
現金・預金	7,786	5,609	2,177	
売掛金	1,079	1,021	58	
その他	97	745	648	← 子会社への貸付等
固定資産	1,196	2,268	1,071	
有形資産	111	143	32	
無形資産	68	53	15	
投資その他	1,016	2,070	1,054	← 子会社株式の取得 投資信託の取得 定期預金への振替等
資産合計	10,159	9,643	516	
< 負債の部 >				
流動負債	1,078	747	331	
買掛金	537	517	20	
その他	541	230	311	← 未払法人税の減少等
固定負債	130	0	130	
繰越税金負債	130	0	130	← 保有有価証券売却により消去
負債合計	1,208	747	461	
< 資本の部 >				
資本金	3,335	3,342	8	
資本剰余金	3,262	3,270	8	
利益剰余金	2,127	2,279	152	
その他	224	3	221	← 保有有価証券売却により消去
資本合計	8,950	8,896	54	
負債・資本合計	10,159	9,643	516	

2.決算概要 <サーティース社によるオニオン社の子会社化について>

(1)会社概要

社名:株式会社オニオン

代表者:代表取締役 川田直美

所在地:東京都港区東麻布

設立年月日:平成14年3月12日

資本金:3,500万円

規模:売上高755,384千円(2006年2月期)

事業内容:広告の企画及び制作、映画・テレビ番組等の企画、制作及び配給。

(2)株式の取得目的

当社グループにとってオニオン社が持つ映像制作能力を加えることにより、サーティース社にとって映像制作と音楽制作を一括で手がける体制が構築され、一括受注による事業拡大を図るため。

(3)取得方法

オニオンの発行済み株式700株のうち、同社の大株主である鈴木拓彦氏が保有する52.0%を取得し子会社化。

取得する株式の総数:364株 取得価格総額:80百万円 取得後の持分比率:52.0%

(ご参考)第4四半期内にサーティース社がグループ化した企業:ネクサスフィルムス社

株式会社ネクサスフィルムスの概要

代表者:代表取締役 勝野安英

所在地:東京都中央区新富

設立年月日:平成14年7月17日

事業内容:テレビ広告・インターネット広告・その他の平面媒体広告の企画及び制作
ビデオ等映像出版物の企画・制作及び販売等

資本金:1,000万円

規模:売上高178,439千円(6月～3月 18年3月期は決算期変更のため10ヶ月決算の実績になります)

2.決算概要 < 配当について >

当社は、平成18年5月12日開催の取締役会において、平成18年3月期の期末配当について、平成18年6月開催予定の第10回定時株主総会に付議することを決議いたしました。

	平成18年3月期	前期実績 (平成17年3月期)
基準日	平成18年3月31日	平成17年3月31日
一株あたりの 配当金	300円00銭	1,500円00銭

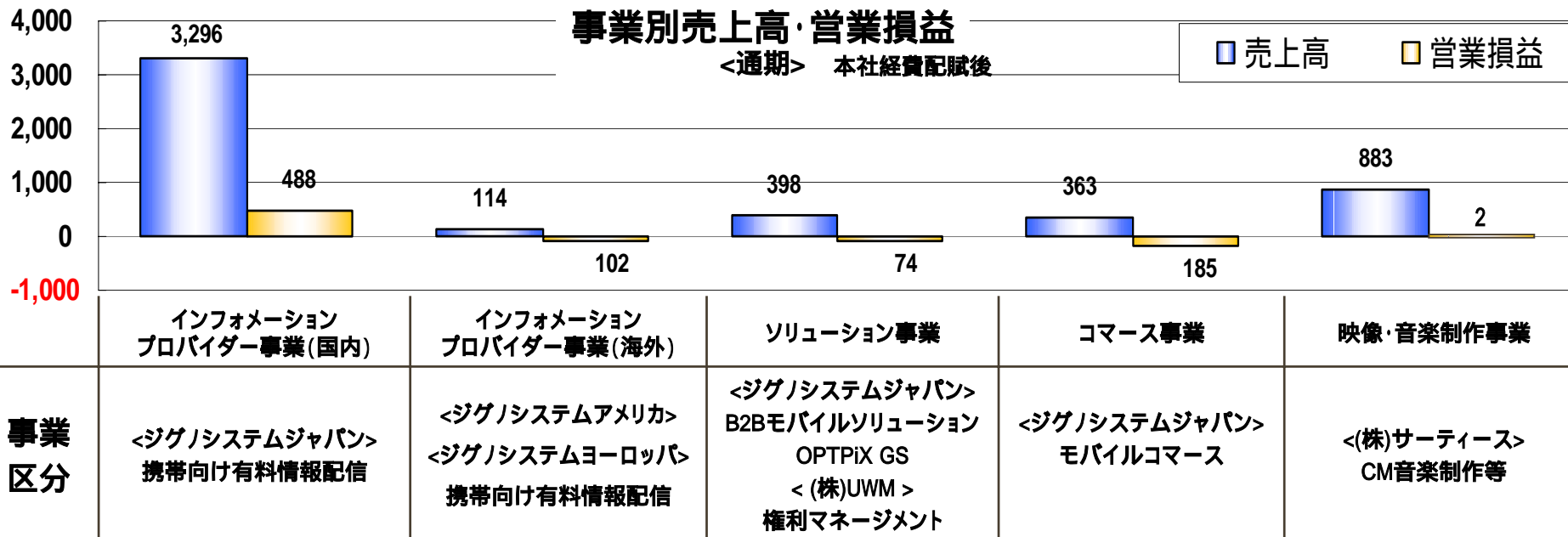
平成17年5月20日をもって、1株を5株に分割しております。

3.事業別営業損益 <通期>

(単位 百万円)

事業別売上高		第9期(05.3期) 通期 連結	第10期(06.3期) 通期 連結	前年 同期比
インフォメーション プロバイダー事業	国内	3,870	3,296	85%
	海外	70	114	163%
システムソリューション事業		180	398	221%
コマース事業		134	363	271%
映像・音楽制作事業		-	883	-
セグメント間内部売上高		-	15	-
合計		4,255	5,041	118%

(単位 百万円)



連結調整勘定(73百万円)含まず。

3-1.インフォメーションプロバイダー事業(国内)

■ 売上高3,296百万円 営業損益488百万円 本社経費配賦後

当期

- 待受画面ユーザー数が減少
- ゲームダウンロード課金サービススタート
- 楽曲ダウンロード課金サービススタート
- PC向けサービススタート

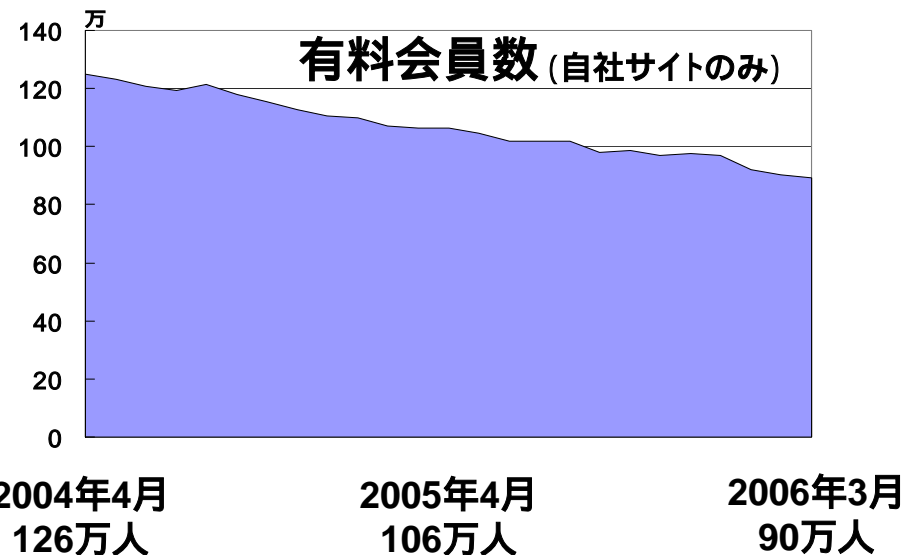
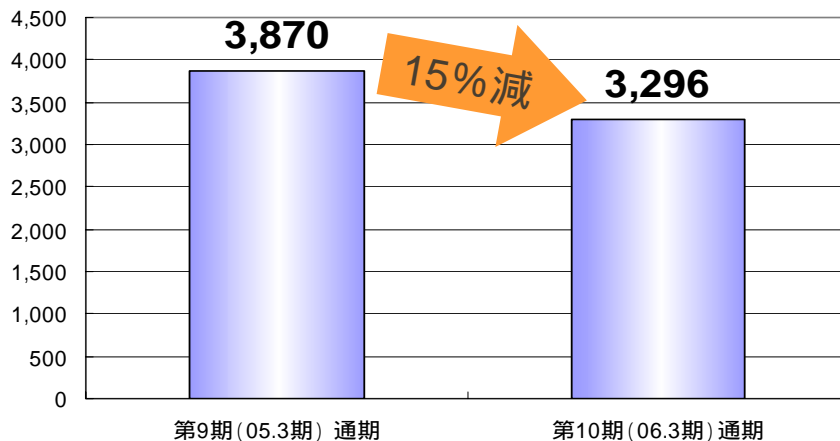
来期の取り組み

- グループ内の映像・音楽制作能力を活かしたコンテンツ・サービスの拡充



インフォメーションプロバイダ事業売上高(通期)

(単位百万円)



3-2. ソリューション事業

■ 売上高307百万円 営業損益 48百万円 本社経費配賦後

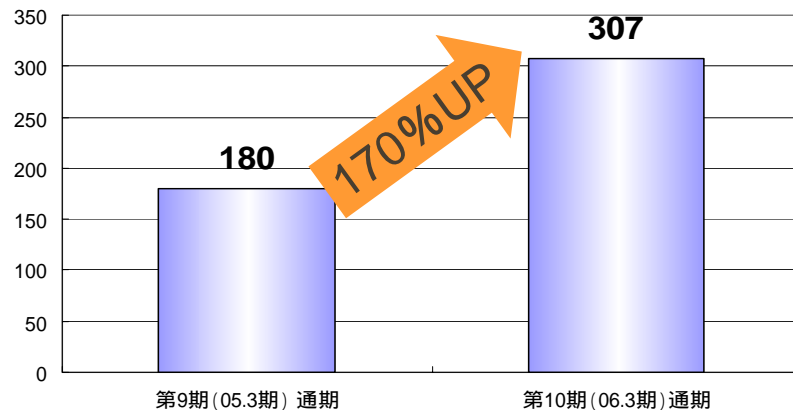
当期

- 番組連動サービス 開始
- 音楽総合情報サイト開始
- 画像ASPサービス新規契約(約30社)

来期の取り組み

- 番組連動サービスの成功事例を基に、放送連動サービスパッケージを様々な放送局に拡販する。
- 放送と連動したネット広告ビジネスを展開する。

(単位百万円) ソリューション事業売上高(通期)



3-3.コマース事業

■ 売上高363百万円 営業損益 185百万円 本社経費配賦後

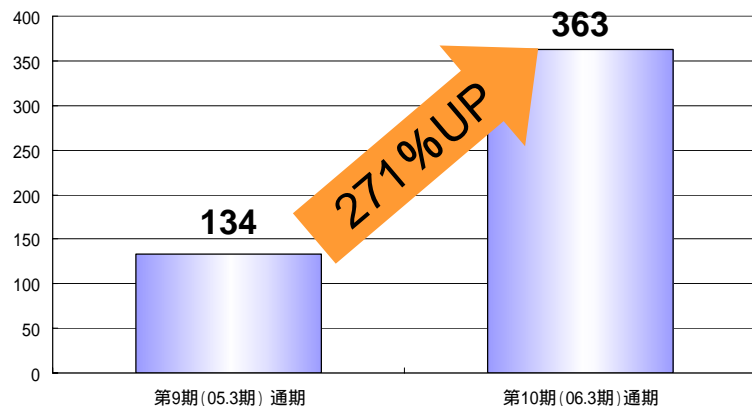
当期

- 物流問題により売上が一時的に減少。
物流システム再構築を実施。
- 大手SNSサービスとのコラボレーション
商品企画等、オリジナルヒット商品開発に取り
組む。

来期の取り組み

- 2006年4月よりエフエム東京の物販事業を一括で
受託。
- 放送と連動した商品販売の促進を積極的に進めて
いく。

(単位百万円) コマース事業売上高(通期)



Shopping Tower(ショッピング・タワー)
サイトTOP画面

3-4. グループ会社について(1) サーティース (映像・音楽制作事業)

■ 売上高883百万円 営業損益2百万円

当期

- CM楽曲制作本数は引き続き業界最大手。
- 映像制作会社をグループ化し、映像・楽曲制作の一体化体制を確立。



(株)サーティース 損益計算書

(単位千円)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	通期
売上高	137,884	256,709	248,547	240,198	883,338
売上総利益	4,009	69,636	38,217	61,407	165,251
営業損益	45,750	33,540	548	14,055	2,393
経常損益	52,244	37,389	1,002	10,179	5,678

第1四半期については当社グループ化に伴う売上計上時期の変更による影響を受け、減収となった。

3-5. グループ会社について(2) UWM



(ユナイテッド・ワールド・ミュージック)

■ 売上高90百万円 営業損益 25百万円

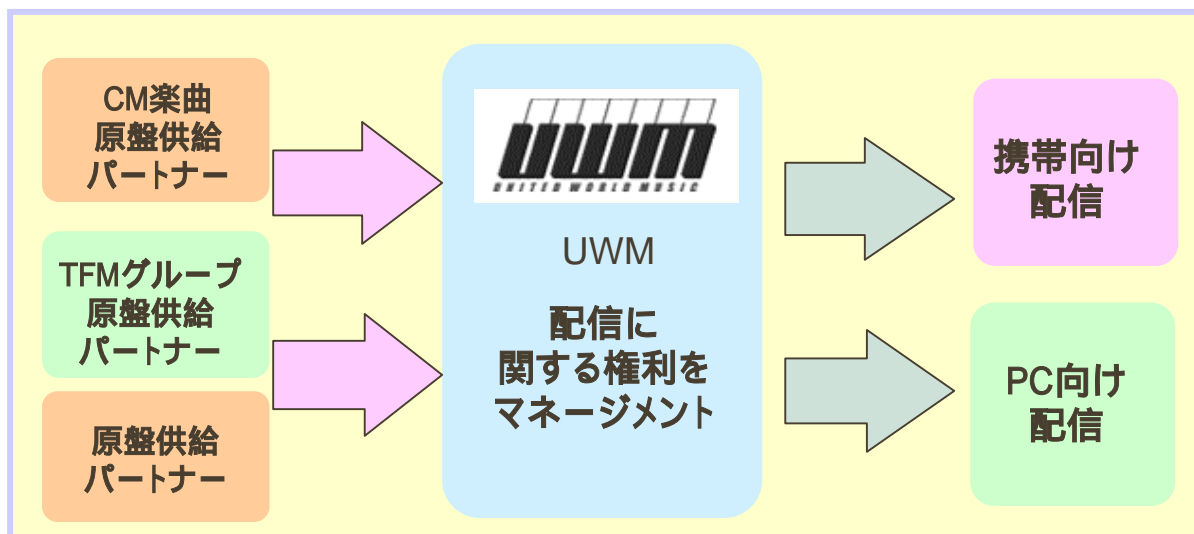
当期

- コンテンツ提供先の開拓
計28社のコンテンツプロバイダーへ契約締結
- 管理CM楽曲数シェア60%以上に拡大。

来期の取り組み

- コンテンツ提供先のネットワークを活かしたグループ内外の音楽コンテンツ権利マネジメント業務を強化する。

権利処理・ライセンス管理を強化



3-6. グループ会社について (3) ジグノシステムアメリカ (GSA) ジグノシステムヨーロッパ (GSE)

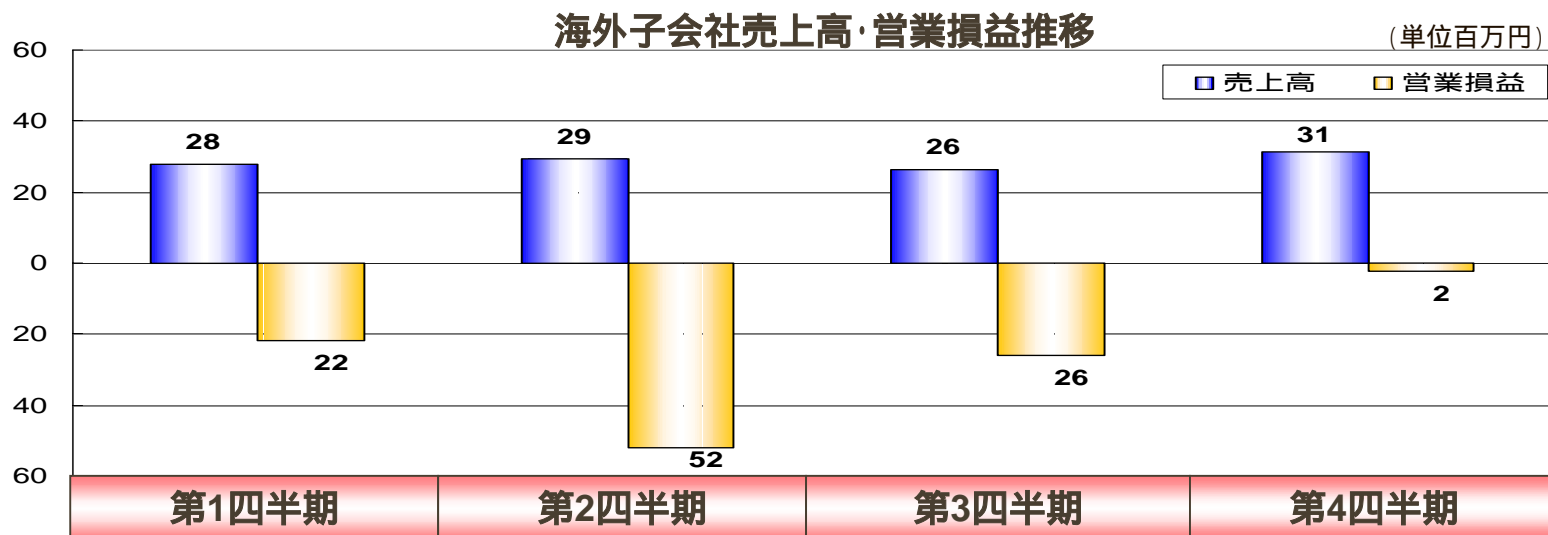
■ 売上高114百万円 営業損益 102百万円

当期

- 欧米キャリア向けサービスの拡販
- 不採算案件を見直し規模縮小

来期の取り組み

- GSAは第1四半期より黒字化予定
- GSEは第2四半期より黒字化予定



GSAにおいて第4四半期の22百万円の特別損失を計上

4. 今後の成長戦略(1)

端末がマルチ機能型になり、
インフラ(放送・通信 / 固定・移動)がシームレス化する中で、
「マルチに通用するコンテンツ」が重要となる

広告

ニュース・情報
コンテンツ

映画・映像
コンテンツ

音楽
コンテンツ

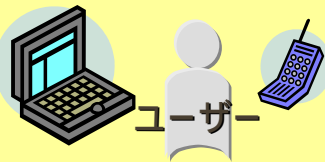
ゲーム

番組
コンテンツ

ショッピング

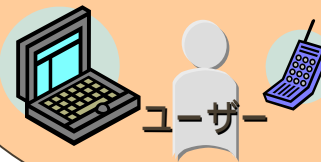
オフィス

PCと携帯でイントラ(メール、スケジュール、アドレス帳)にアクセス
ひとつの携帯で内線・外線通話



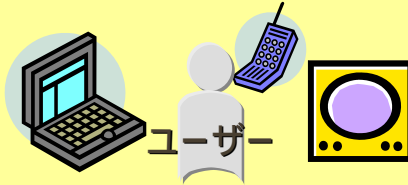
移動中

PCと携帯で会社のイントラや
ニュースサイトにアクセス
携帯で社外でも内線通話



自宅

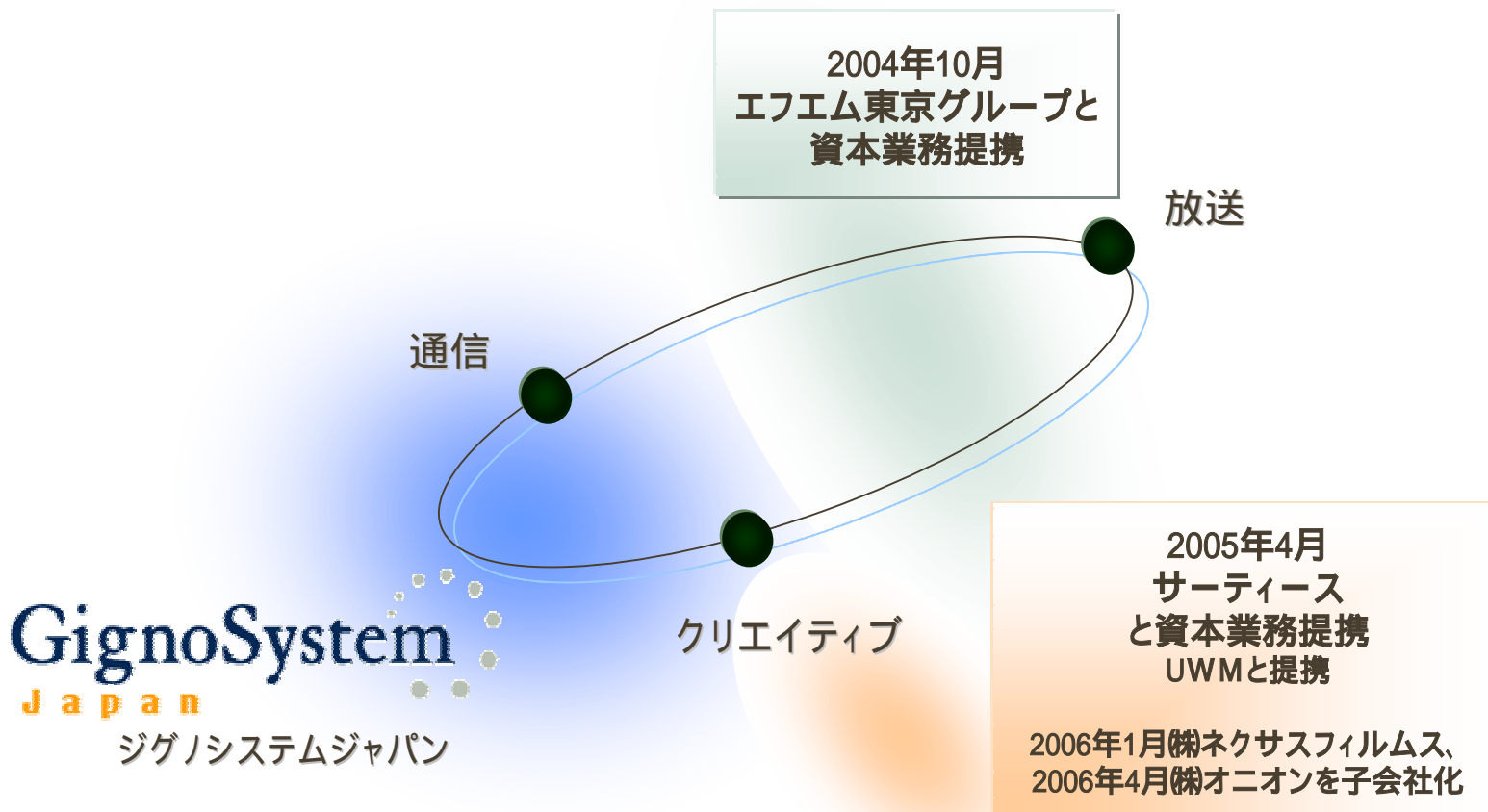
TVやPCで番組視聴
PCや携帯で番組サイトにアクセス
PCと携帯で楽曲DL



マルチ端末対応のコンテンツを制作し、マルチインフラで
配信することができるジグノグループを目指す。

4. 今後の成長戦略(2)

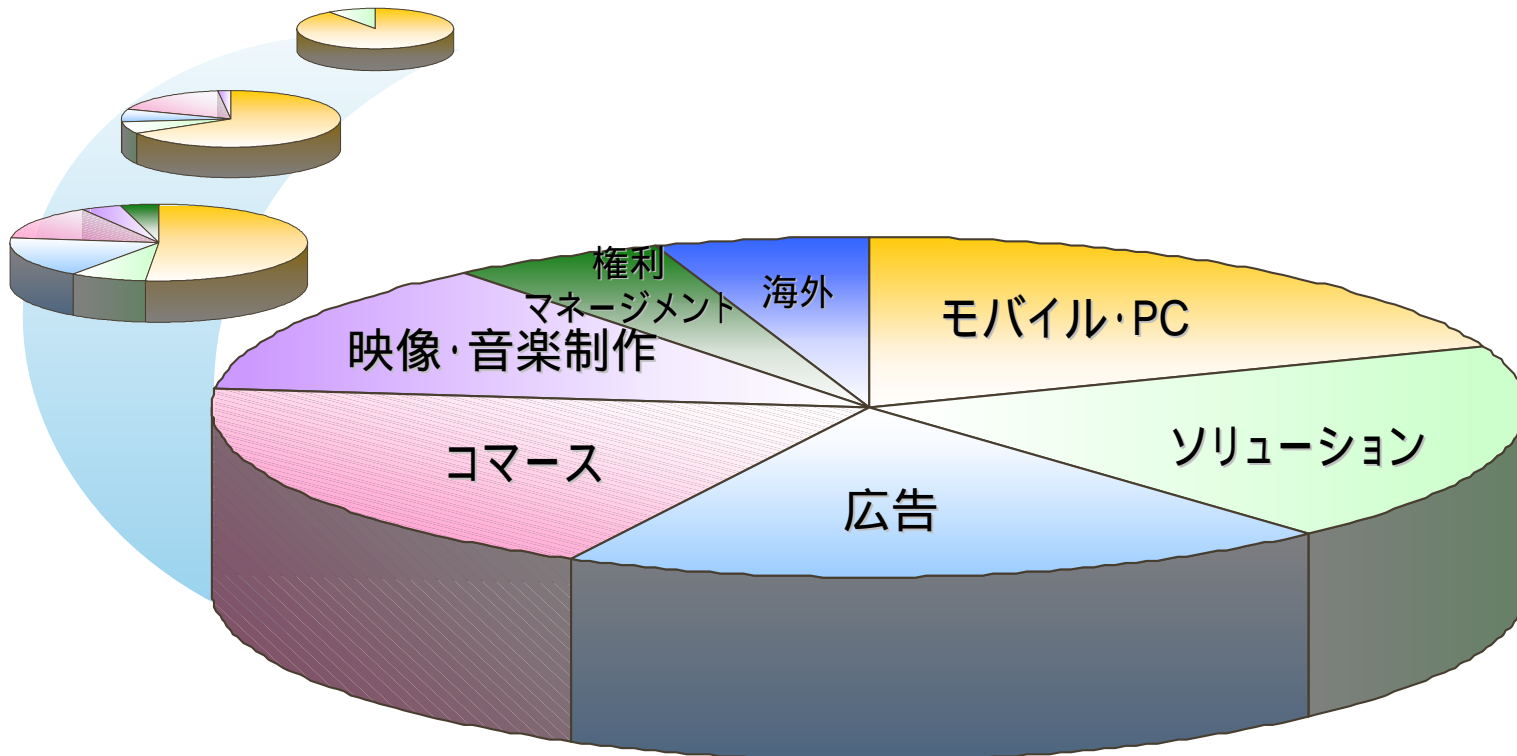
「マルチに通用するコンテンツ」を自ら制作し、自ら配信する「最強のフォーメーション」を第9期、第10期(当期)で実現。



第10期(当期)、第11期を「第二創業期」とし、第12期以降の「第二成長期」へ向けてプロジェクトを推進

4. 今後の成長戦略(4)

映像・音楽制作	コマース	広告	モバイル・PC	ソリューション
音楽・映像制作 権利ビジネス	ラジオショッピング コマースシステムの他社 向け販売	放送連動ポータルを利用 した広告販売	グループの豊富なコンテ ンツと制作力を活用した サービス投入	放送連動型番組制作 ノウハウの 各放送局向け拡販



5. 今期業績予想

第11期(2007年3月期)業績予想(連結) (百万円)

連結	中間期	通期
売上高	3,214	7,031
経常利益	98	451
当期純利益	21	191

第11期(2007年3月期)業績予想(単体) (百万円)

単体	中間期	通期
売上高	2,044	4,477
経常利益	90	338
当期純利益	51	181



マルチ端末化 インフラシームレス化により変化する市場の